



新毎日

10月6日(金)
2017年(平成29年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社

号外

国際NGO「iCAN」

「核廃絶」に平和賞

【ロンドン矢野純一】ノルウェー・ノーベル賞委員会のアンデルセン委員長は6日、2017年のノーベル平和賞をスイス・ジュネーブに拠点を置き、日本のNGOも参加している「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)に授与すると発表した。



団体の横断幕を手にもつノーベル平和賞受賞の決定を喜ぶ国際NGOネットワーク「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)のメンバー。スイスのジュネーブで6日、ロイター

ノーベル賞 条約採択を主導

ICANは07年に発足した国際NGOネットワーク。今年7月に国連で「核兵器禁止条約」を採択した際に、主導的役割を果たしたことも高く評価された。

ノーベル賞委員会は授賞理由について「北朝鮮のように、核兵器を獲得しようとする国々が現実の脅威となっている。ICANは国際法のもとでの核兵器廃止を実現するために市民社会における主導的な役割を果たしてきた」とした。

同条約には米国など核保有国や、米国の核の傘の下にいる日本、韓国など同盟国は署名していない。

ノーベル平和賞は、その年の2月1日までに各国の政府や国会議員、大学教授、過去の受賞者、国際機関の職員などによって推薦された候補者からノーベル賞委員会(5人)が選出している。

1901年の創設以来、昨年まで計130個人・団体(複数回受賞の組織あり)が受賞している。今年も318個人・団体に對する推薦があった。

授賞式は、ノーベル賞の創設者であるアルフレッド・ノーベルの亡くなった日にちなみ12月10日、オスロ市庁舎で開かれる。賞金は今年から100万スウェーデン・クローナ増額され、900万スウェーデン・クローナ(約1億2500万円)。